

池袋発の深夜急行バスにおける利用者特性の分析

Analysis of the Passenger's Characteristics of Midnight Express Bus Departed from Ikebukuro

指導教授 轟 朝 幸 川 崎 智 也 0 1 4 5 餅 越 大 生

1. はじめに

国際興業の深夜急行バスは運行開始から 25 年以上が経過し、利用者数とともに営業路線も増加している。しかし、深夜急行バスの利用目的などについては筆者が知る限り客観的に明らかにされていない。

そこで本研究では、深夜急行バス利用者を対象にアンケート調査を行い、深夜急行バスの利用に影響する要因を明らかにすることを目的とする。本研究で得られた結果は、今後の新規路線計画や運行計画などを行う際に参考になるものと考えられる。

2. 対象路線

本研究では、国際興業バスが運行する池袋駅を起点とする深夜急行バス 6 路線を対象とした。各路線の運行ルートを表 1 に示す。なお、発車時刻は朝霞台行きのみ 1 時 5 分発で、他の路線は 1 時 20 分発である。所要時間は各路線とも約 1 時間である。

表 1 各路線の運行ルート

起点	経由地	終点
池袋駅	成増駅	朝霞台駅
	志木駅	新座駅
	光が丘駅	和光市駅
	南浦和駅	東浦和駅
	高島平駅	中浦和駅
	浦和駅	大宮駅

3. アンケート調査の概要

2013 年 12 月 16 日月曜日に、池袋駅にて対象路線の利用者に対してインタビュー形式でアンケート調査を行った。アンケートの質問項目を表 2 に示す。

表 2 アンケートでの質問項目

質問番号	質問項目
Q1	年齢
Q2	職業
Q3	自宅からの経路・所要時間
Q4	深夜急行バスをどのように知ったか
Q5	深夜急行バスの利用頻度
Q6	深夜急行バスの乗車決定時期
Q7	就業終了から深夜急行バス乗車までの行動
Q8-9	深夜急行バスの乗車理由
Q10-13	深夜急行バスを最も利用する曜日・利用しない曜日
Q14-15	深夜急行バスを最も利用する月・利用しない月
Q16	深夜急行バスを降車してからの帰宅手段

主な質問項目として、個人属性、深夜急行バス利用目的、乗車を決めた時期、利用する月・曜日、利用しない月・曜日、その理由を設定した。なおサンプル数は 47 部であった。

4. 分析結果

(1) 基礎集計

路線別にデータ収集を行ったが、サンプル数が少ないことや、1 日だけの調査であるため一概には言えないが、全路線での結果を考察していくこととする。最多利用曜日の結果を図 1 に示す。金曜日が 63% と最多で、月曜日が 21% と比較的大きな割合を占めた。ほぼ毎日利用する人は 5% であった。図 2 に最多利用月の結果を示す。12 月が 79% と最多である一方、年度末で飲み会が多い 3 月が 7% となった。なお、8 月と 11 月も 7% であった。図 3 に最多利用曜日の利用理由を示す。飲み会が 70% と最多であり、次いで仕事が 25% となった。以上より、深夜急行バスの利用理由としては飲み会と仕事で帰りが遅くなったなどの理由によるものと考えられる。図 4 に最多利用月の利用理由を示す。図 3 とほぼ同様の結果であり、曜日と月では利用理由に違いがないと言える。図 5 に乗車を決めた時期を示す。終電後が最多で、終電を逃した人が深夜急行バスを利用する傾向があることがわかる。また、終電前に決定している人も 15% いる。この結果から、直前まで利用者数変動する可能性があることがわかるため、直前の需要に柔軟に対応できる仕組みを作ると利用者の増加につながると考えられる。

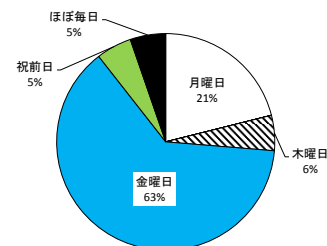


図 1 最多利用曜日 (N=19)

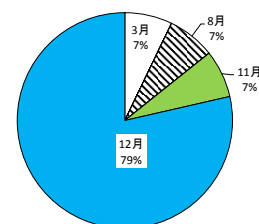


図 2 最多利用月 (N=14)

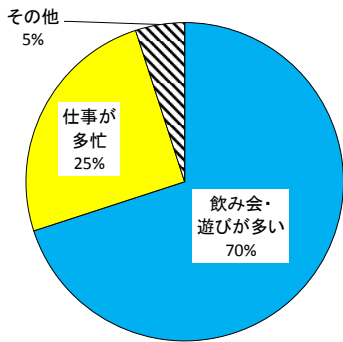


図-3 最多利用曜日の利用理由(N=20)

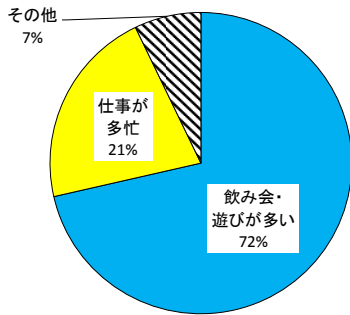


図-4 最多利用月の利用理由(N=14)

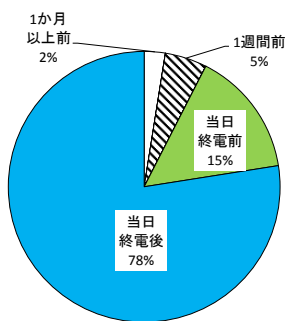


図-5 乗車決定の時期(N=40)

(2) クロス集計結果

基礎集計の結果をより深く考察するため、クロス集計を行った。図-6に最多利用曜日で金曜日を選択した回答者とそれ以外の曜日を選択した回答者の利用理由を示す。なお、金曜日のサンプル数は12で、それ以外の曜日のサンプル数は6である。金曜日は飲み会・遊びの回答率が80%を超しており、金曜日以外では飲み会・遊びの回答率が約65%であったことから、金曜日は飲み会・遊びによる利用理由が高い。これは週末のため飲み会が多くなるためだと考えられる。実際にアンケートでは飲み会が最も多い曜日についても聞いたが、金曜日が70%と最多であったことから飲み会の割合が増加したと考えられる。また、仕事が多忙という理由は金曜日とそれ以外の曜日では違いは見られなかった。これは、仕事については曜日により仕事量が変わらないためだと考えられる。実際にアンケートでは仕事が最も

多忙な曜日についても聞いたが、毎日忙しいが45%で最多であったことから仕事量が曜日により変動しないためと考えられる。図-7に最多利用月で12月を選択した回答者とそれ以外の曜日を選択した回答者の利用理由を示す。なお、金曜日のサンプル数は11、それ以外の曜日のサンプル数は3である。12月は飲み会・遊びの回答率が70%を超している。一方で、12月以外では飲み会・遊びの回答率は約30%であり傾向が異なることがわかった。12月は忘年会シーズンで飲み会が多いためと考えられる。それ以外の月では仕事が多忙という回答が約70%で最多であった。仕事が多忙と回答した方が最も利用する月は3月と11月であった。その理由としては、3月は年度末のため仕事が多忙であるため、11月は仕事の関係で11月が最も忙しいという回答であった。

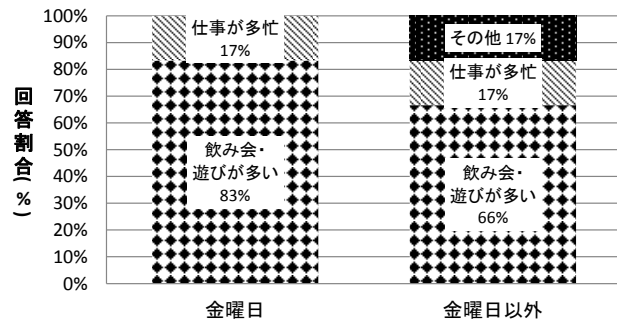


図-6 曜日別の利用理由

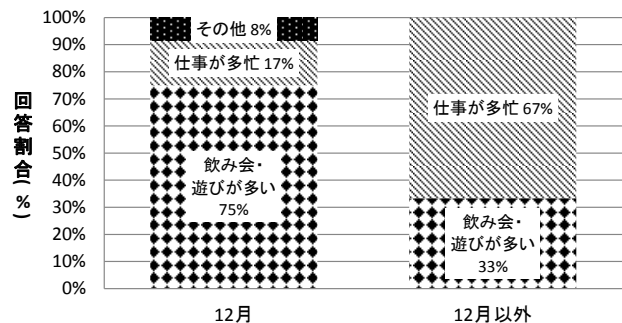


図-7 月別の利用理由

5. まとめ

本研究より、金曜日および12月は利用されやすい傾向があることが明らかとなった。その理由としては飲み会であることが明らかとなった。また、利用者の多くは終電後に乗車を決めていることが明らかとなった。今後の課題としては、サンプル数が少ないことから、他路線・他地域での長期間アンケートを行い、アンケート数を増やす必要が挙げられる。

謝辞

国際興業グループ株式会社にはアンケート調査などご協力いただいた。この場を借りて謝意を表したい。